



1:13 粗布をまとつて悼み悲しめ、祭司たちよ。泣き叫べ、祭壇に仕える者たちよ。私の神に仕えよ。夜を過ごせ。がたの神の宮から退けられたからだ。

1:14 断食を布告し、きよめの集会を召集せよ。長老たちとこの国に住むすべての者を、あなたがたの神、【主】の宮に集め、【主】に向かって叫び求めよ。

1:15 ああ、その日よ。【主】の日は近い。全能者による破壊の日として、その日は来る。

1:16 私たちの目の前で、食物が断たれ、私たちの神の宮から喜びも楽しみも消費失せたではないか。

1:17 穀物の種は土の下で干からび、倉は荒れ果て、穴蔵は崩れた。穀物がしなびたからだ。

1:18 ああ、なんと畜がうめいていることか。牛の群れはさまよう。牧場がないからだ。羊の群れも滅びる。

1:19 あなたに、【主】よ、私は呼び求めます。火が荒野の牧場を焼き尽くし、野のすべての木を炎がなめ尽くしました。

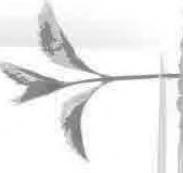
1:20 野の獣も、あなたをあえぎ求めています。水の流れが涸れ、火が荒野の牧場を焼き尽くしたからです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



なりませんが、主はイエス様の贖いによって罪を赦してください。イエス様のゆえに礼拝が可能になります。本來さばそのイエス様のそれが祝福の証しです。許されたものとなるべきもののは、この何と感謝なことでしょうか。礼拝を何よりも大切にし、また主に喜ばれる礼拝のために最善を尽くしましょう。

「祭司」や「祭壇に仕える者」に対してさえ、主はさばきの宣告をなさいます。主との交わりという大切な働きですが、國全体が不信仰になり、その信仰の中心どもいうべき部分が機能不全になります。私たちの共同体がもしも主から何よりもされない限り、その共通の中心どもいうことが機能不全に陥ることでしょ。私たちも罪あればどうぞいの中心が私たちの生命線です。私たちの信仰交わりこそが私たちの生き方の宣言を受ければものなので、主からのさばきの宣告を受ける